

史料群番号 31

史料群名	うちのしんいち 内埜新一家文書	旧所蔵者	内埜新一
探訪時住所	茨城県稲敷郡古渡村上馬渡		
現在の住所	茨城県稲敷市上馬渡		
探訪年月	昭和26（1951）12月		
史料の年代	宝暦12（1762）年～明治11（1878）年	史料の総点数	48点
年代の内訳	近世 38点/近代 5点/不明 5点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「1953年11月 漁業制度資料目録 第9集 全国篇VI 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十五年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-茨城県（霞ヶ浦・北浦周辺地域）関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

水産資料館の整理で「旧上馬渡村関係所蔵不明分」と題された史料群があり、平成15年3月に印刷された水産総合研究センター所蔵古文書目録の編集に当たって調査した結果、これらの史料は本来内埜新一家文書に含まれることが判明した。現在では、本来の形に戻して保管している。本史料群は、探訪時の書類で寄贈が確かめられる。

史料群の概要

上馬渡（かみまわし）は、霞ヶ浦の南岸に位置し、近世では常陸国河内郡上馬渡村で、明治22年に古渡村に含まれた。その後の古渡村の変遷については「永長栄三郎家文書」の「史料群の概要」参照。

上馬渡村は、天領と旗本の相給村で、内埜家は旗本安藤氏知行地の名主を勤めた家である。史料は先納金など旗本の勝手賄に関する史料など、大半は領主との関わりの中で作成されたものである。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

